

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-11C	15-004	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Prospective association between alcohol intake and hormone-dependent cancer risk: modulation by dietary fiber intake. 飲酒とホルモン依存性癌発症リスクの関係：食物繊維摂取による影響		
執筆者		
Chhim AS, Fassier P, Latino-Martel P, Druesne-Pecollo N, Zelek L, Duverger L, Hercberg S, Galan P, Deschasaux M, Touvier M.		
掲載誌		
Am J Clin Nutr. 2015 Jul;102(1):182-9. doi: 10.3945/ajcn.114.098418.		
キーワード		PMID
アルコール、乳癌、食物繊維、ホルモン依存性癌、前向き研究、前立腺癌		25994566
要 旨		
背景： 飲酒は性ホルモンの血中濃度上昇と関連しており、性ホルモン血濃度上昇はホルモン依存性癌のリスクと関連する。食物繊維の摂取はステロイドホルモン利用能低下作用があるため、上記関連は食物繊維の摂取により変化を受けるかもしれない。		
目的： 飲酒とホルモン依存性癌(乳癌、前立腺癌、卵巣癌、子宮内膜癌、精巣癌)との関連、および食物繊維摂取がこの関連に影響を与えるかどうかを調査する。		
方法： Supplémentation en Vitamines etMinérauxAntioxydants study(1994–2007)の対象者(男性 2,771 名、女性 3,771 名)で調査開始後の 2 年間に少なくとも 6 回の 24 時間食物思い出し法を実施した者に対する前向き観察研究を行った。関連の有無は多変量 COX ハザードモデルで分析した。		
結果： 12.1 年のフォローアップが経過したとき、297 名にホルモン依存性癌(158 名の乳癌、123 名の前立腺癌、16 名はその他のホルモン依存性癌)が発症した。飲酒はホルモン依存性癌発症に関連していた。飲酒量で 3 分位し、低飲酒カテゴリーを基準とした高飲酒カテゴリーのハザード比は、全ホルモン依存性癌では 1.36(95%CI 1.11,2.61)、乳癌では 2.53(95%CI 1.11,2.61)だったが、前立腺癌については有意な関係はなかった。食物繊維摂取量の中央値で 2 分した層別解析では、食物繊維を摂取が少なかったグループで、飲酒とホルモン依存性癌の発症に関連が見られたが、食物繊維を摂取したグループではそのような関連は見られなかった。飲酒と食物繊維間の交互作用は、前立腺癌発症者では有意だったが、全ホルモン依存性癌と乳癌では有意ではなかった。		
結論： 食物繊維の摂取が、飲酒とホルモン依存性癌の関係を緩和させる可能性がある。		